

# 施策評価表

施策番号	- - 15	重点プラン	2 安心していきいきと暮らせる	施策名	地域と連携した教育の推進	所管課	学校教育課	関係課				
------	--------	-------	-----------------	-----	--------------	-----	-------	-----	--	--	--	--

## 1. 施策の概要

対象	各小・中学校児童・生徒、教職員、保護者、地域住民
目的	児童生徒の生きる力の育成を目指し、家庭・地域の持つ教育力を活用して学校と連携した教育環境を構築します。
現状 (計画策定時)	学校応援団の組織体制を整備し、各学校で特色ある教育活動を行うための支援を行っています。しかしながら、各学校のPTA組織や学校支援ボランティアなど、支援組織の整備状況に学校ごとの差がみられ、児童生徒のさまざまな体験活動を行える場所や支援に携わる協力者が不足しています。
課題 (計画策定時)	教育活動の一層の充実を図り、教育効果を高めるための家庭・地域の教育力を向上させる支援体制や活動の場などが不足しているため、地域総ぐるみで児童生徒を育てる支援体制を整備する必要があります。また、児童生徒の確かな学力・豊かな心・健やかな体を育成するための支援体制が不足しており、通常の学習活動とともにさまざまな体験活動を通じた総合的な取り組みの充実が必要です。

## 2. 施策指標の達成度(定量的評価)

計画 施策に 基づく	指標名	単位	年度	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H32	平成27年度目標値 に対する進捗率 (%)
				目標値	実績値	目標値	実績値	目標値	実績値	目標値	実績値	
計 画 指 標	学校応援団への協力者数	人	目標値			600.0	700.0			800.0	1200.0	276.0
			実績値	570.0	570.0	2208.0						
	連携活動実施数	回	目標値			5.0	5.0			5.0	6.0	96.0
補 足 指 標	みどりの学校ファーム設置率	%	目標値			100.0	100.0			100.0	-	100.0
			実績値	54.6	81.8	100.0						
			目標値									
			実績値									
施策指標の達成度に関する評価										理由		
A 目標をほぼ達成する B 目標をやや下回る C 目標を下回る D 目標を大幅に下回る				A 学校応援団の整備並びに特色ある教育活動への予算を含めた支援等が充実してきている。								

## 3. 施策の取組内容の達成度(定性的評価)

取組 番号	取組内容	取組内容の評価		事務事業名	課所名	備考	事務事業 評価結果	事業費									今後の方向性				
		活動の成果・進捗状況	未達成事項・ 解決していない課題					平成22年度決算額(千円)			平成23年度決算額(千円)			平成24年度予算額(千円)			構成事 業の受 当性	優先度			
								総額 (A)	特定財源 (B)	一般財源 (A-B)	総額 (A)	特定財源 (B)	一般財源 (A-B)	総額 (A)	特定財源 (B)	一般財源 (A-B)		1次 評価	2次 評価		
	学校応援団の整備	家庭や地域の方々の学校教育への関心が高まり、学校行事などへの積極的な参加協力が 増え、家庭地域の教育力の向上や開かれた 学校・信頼される学校づくりを推進することが できた。 組織づくりや環境整備が進み、今後は開かれ た学校・信頼される学校づくりのために、更 なる活動の充実を目指す。	人材や物品などを学校間で共有 することが可能な部分を改善する 余地はある。	地域連携推進	学校教育課		改善して継続	1,018	440	578	1,146	396	750	1,266	422	844		A	A		
	家庭や地域総ぐるみの教育支援体制の拡充	家庭や地域の方々の学校教育への関心が高まり、学校行事などへの積極的な参加協力が 増え、家庭地域の教育力の向上や開かれた 学校・信頼される学校づくりを推進することが できた。 組織づくりや環境整備が進み、今後は開かれ た学校・信頼される学校づくりのために、更 なる活動の充実を目指す。	人材や物品などを学校間で共有 することが可能な部分を改善する 余地はある。	地域連携推進(重複)	学校教育課																
	学校応援団の支援による特色ある教育活動の展開	家庭や地域の方々の学校教育への関心が高まり、学校行事などへの積極的な参加協力が 増え、家庭地域の教育力の向上や開かれた 学校・信頼される学校づくりを推進することが できた。 組織づくりや環境整備が進み、今後は開かれ た学校・信頼される学校づくりのために、更 なる活動の充実を目指す。	人材や物品などを学校間で共有 することが可能な部分を改善する 余地はある。	地域連携推進(重複)	学校教育課																
				特色ある学校づくり(小学校)	学校教育課	H23まで	終了(廃止・休止)	4,000	0	4,000	800		800	0	0	0					
				特色ある学校づくり(中学校)	学校教育課	H23まで	終了(廃止・休止)	1,500	0	1,500	300		300	0	0	0					
				学校活性化事業	学校教育課	H24～	-			0			0	11,000	0	11,000	新規	A	B		
	みどりの学校ファームの推進	本年度は、和光市内全小・中学校においてみどりの学校ファーム推進事業に取り組み、栽培体験に取り組むことができた。	みどりの学校ファームに活用できる農地の確保	学校活性化事業(重複)	学校教育課																
	豊かな自然体験活動の実施	自然体験活動については、緑の学校ファームの取組において、地域ボランティアの方による栽培指導や、幼保小の連携による収穫活動により、豊かな事前体験活動が進められた。	地域ボランティアの方の更なる協力を進めていく。	地域連携推進(重複)	学校教育課																
				校外活動支援(小学校)	学校教育課		このまま継続	4,002	0	4,002	3,425		3,425	3,800	0	3,800		A	B		
				校外活動支援(中学校)	学校教育課		このまま継続	2,958	0	2,958	2,790		2,790	3,100	0	3,100		A	B		

## 施策評価表

施策番号	- - 15	重点プラン	2 安心していきいきと暮らせる	施策名	地域と連携した教育の推進
------	--------	-------	-----------------	-----	--------------

所管課	学校教育課	関係課			
-----	-------	-----	--	--	--

### 4. これまでの取組に関する施策全体の総合評価

総合評価	理由(施策全体の進捗状況・解決していない課題など)
A 順調に進んでいる B ほぼ順調に進んでいる C あまり順調に進んでいない D 順調に進んでいない	B 学校応援団は、平成23年度より全校で取組み、充実を図っている。 みどりの学校ファームは全校で取組んでいるが、校外での農地の確保が出来ず、学校内で行っているところが多い。 学校活性化事業により、学校の特色を出しやすくなってきている。今後充実させていく必要がある。
当市のサービス水準	理由(近隣他市との比較)
A 高い B 普通 C 低い	B 農地の確保が進んでいる。

### 5. 今後の施策の方向性(施策の推進に向けた今後の施策の展開や事業の見直し等)【1次評価(所管課)】

1次評価	今後も家庭・地域の連携を強め、協力して、児童生徒の生きる力の育成に努めていく。	対象者の方向性(増減)(%)	基本目標に対する貢献度
		100	A

### 6. 今後の施策の方向性【2次評価(行政評価委員会)】

2次評価	連携の拡大とともに、質の向上にも工夫した事業展開を図ること。また、学校活性化事業については、補助金の趣旨を踏まえ効果的な活用を工夫すること。	サービス水準		コスト
		現状	方向性(目標水準)	方向性
		B	(B)	

### 7. 今後の施策の方向性(次年度行政経営方針)

サービス水準	コスト	コメント
現状	方向性	方向性

# 施策評価表

施策番号	- - 20	重点プラン	2 安心していきいきと暮らせる	施策名	小中学校の配置・規模の適正化の推進	所管課	教育総務課	関係課	学校教育課		
------	--------	-------	-----------------	-----	-------------------	-----	-------	-----	-------	--	--

## 1. 施策の概要

対象	市内小中学校に通う児童生徒
目的	市内学校の配置と児童生徒数のアンバランスを解消し、教育環境の適正化を図ります。
現状 (計画策定時)	本市は、児童生徒数増加のため、学校選択制を行うなど、児童生徒の教育環境の適正化の対応を図っています。本市では、年々児童生徒数が増加しており、小中学校ともに他市平均に比べ1校当たりの児童生徒数が多い状況にあります。特に、白子小学校、第四小学校、大和中学校、第三中学校の児童生徒数が増加しており、更に今後も、児童生徒数の増加が見込まれます。学校の配置をみると、市の南側には中学校3校と小学校5校配置されていますが、北側には小学校3校となっています。
課題 (計画策定時)	学校による児童生徒数の偏りを解消するとともに、新設校設置後の適正な学校規模を維持することが必要です。

## 2. 施策指標の達成度(定量的評価)

指標名	単位	年度	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H32	平成27年度目標値に対する進捗率(%)
			目標値	実績値	目標値	実績値	目標値	実績値	目標値	実績値	
小学校1校当たりの児童数	人	目標値			529.0	532.0			519.0	-	98.9
		実績値	537.0	537.0	525.0						
中学校1校当たりの生徒数	人	目標値			555.0	607.0			478.0	508.0	85.8
		実績値	517.0	550.0	557.0						
補足指標		目標値									
補足指標		実績値									
補足指標		目標値									
補足指標		実績値									

施策指標の達成度に関する評価

A 目標をほぼ達成する B 目標をやや下回る  
C 目標を下回る D 目標を大幅に下回る

B 児童生徒数の偏りが解消されていないため。

## 3. 施策の取組内容の達成度(定性的評価)

取組番号	取組内容	取組内容の評価		事務事業名	課所名	備考	事務事業評価結果	事業費						今後の方向性					
		活動の成果・進捗状況	未達成事項・解決していない課題					平成22年度決算額(千円)			平成23年度決算額(千円)			平成24年度予算額(千円)			構成事業の妥当性	優先度	
								総額(A)	特定財源(B)	一般財源(A-B)	総額(A)	特定財源(B)	一般財源(A-B)	総額(A)	特定財源(B)	一般財源(A-B)		1次評価	2次評価
	学校選択制の活用による市内小中学校の教育環境の適正化	学校選択制により、僅かだが成果が出ている。	今後も継続して取組んでいく。	人件費以外予算を伴わない取組	学校教育課			0	0	0	0	0	0	0					
	小・中学校の建設	小学校建設の進捗状況としては、小学校予定地の確保をするために用地交渉を行っている。	地権者との交渉で用地確保の契約締結に努めている。	和光市市立小学校建設	教育総務課	このまま継続	0	0	0	0	1,500	0	1,500		A	A			
	学校の適正配置・適正規模の検討と改善	学校選択制により、僅かだが成果が出ている。	今後も継続して取組んでいく。	学校建設基金積立	教育総務課	このまま継続	105,200	0	105,200	100,083		100,083	62	62	0	B	B		
								0	0	0	0	0	0	0					
								0	0	0	0	0	0	0					
								0	0	0	0	0	0	0					
								0	0	0	0	0	0	0					

## 4. これまでの取組に関する施策全体の総合評価

総合評価	理由(施策全体の進捗状況・解決していない課題など)
A 順調に進んでいる B ほぼ順調に進んでいる C あまり順調に進んでいない D 順調に進んでいない	C 小学校建設事業を進めることで、小学校の教育環境の適正化、適正配置、適正規模が達成されることから小学校用地の確保に努めています。
当市のサービス水準	理由(近隣他市との比較)
A 高い B 普通 C 低い	C 他市との比較としては、1校当たりの児童生徒数が多い状況にあるため、偏りを解消し適正な規模となるようにすることが重要となっています。

## 5. 今後の施策の方向性(施策の推進に向けた今後の施策の展開や事業の見直し等)【1次評価(所管課)】

1次評価	計画的に進めるためにも各取組内容の調整を行い、小学校建設事業を進めていきます。	対象者の方向性(増減)(%)	基本目標に対する貢献度
		100	A

## 6. 今後の施策の方向性【2次評価(行政評価委員会)】

2次評価	用地確保等については課題も多いが、着実・早急な進展に最善を期すこと。財源措置については、進捗状況に合わせ確保していくこと。	サービス水準	コスト
		現状	方向性(目標水準)
		C	(B)

## 7. 今後の施策の方向性(次年度行政経営方針)

サービス水準	コスト	コメント
現状	方向性	

# 施策評価表

施策番号	- - 36	重点プラン	2 安心していきいきと暮らせる	施策名	高齢者の生きがいと社会参加への支援	所管課	長寿あんしん課	関係課				
------	--------	-------	-----------------	-----	-------------------	-----	---------	-----	--	--	--	--

## 1. 施策の概要

対象	高齢者
目的	高齢者が生きがいを持ち、住み慣れた地域で健康にいきいきと暮らせるようにしていきます。
現状 (計画策定時)	本市では、介護保険事業計画及び高齢者保健福祉計画に基づき、高齢者福祉センターなどを活用して、高齢者の生きがいづくりや世代間交流につながる活動に取り組んでいます。しかし、老人クラブへの加入率は、高齢者人口の11.2%と低い水準にとどまっており、高齢者の就労を目的としたシルバー人材センターの登録者数についても、平成21年度で355人となっており、類似の団体に比べて、低い水準にあります。また、高齢者の健康意識の高まりを示すものとして、健康健診の受診率の増加がみられます。
課題 (計画策定時)	高齢者の生きがいづくりのために、地域とのつながりに高い関心を持つことや、高齢者の知識と経験を生かすことが求められています。しかしながら、老人クラブの加入率やシルバー人材センターの登録者数は依然低い水準にとどまっており、活動の場として十分に生かされておられません。また、高齢者が健康でいきいきと暮らしていくためにも健康診査の受診率を更に高めるための対策が求められています。

## 2. 施策指標の達成度(定量的評価)

計画 指標	指標名	単位	年度	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H32	平成27年度目標値 に対する進捗率 (%)
				目標値	実績値	目標値	実績値	目標値	実績値	目標値	実績値	
計 画 指 標	高齢者福祉センター利用者数	人	目標値			69800.0	69900.0			70000.0	72000.0	95.6
	実績値		69547.0	68604.0	66909.0							
指 標	シルバー人材センター登録者数	人	目標値			385.0	400.0			430.0	745.0	86.0
	実績値		355.0	375.0	370.0							
補 足 指 標	健康診査受診率	%	目標値			42.0	43.0			50.0	50.0	20.0
	実績値		42.0	41.0	10.0							
				目標値								
				実績値								
				目標値								
				実績値								
施策指標の達成度に関する評価						理由						
A 目標をほぼ達成する B 目標をやや下回る C 目標を下回る D 目標を大幅に下回る						C 掲げた指標については目標(値)を達成していないが、質的な効果(健康意識の高まり等)については一定の効果が認められ、施策への貢献を果たしているものと評価する。						

## 3. 施策の取組内容の達成度(定性的評価)

取組 番号	取組内容	取組内容の評価		事務事業名	課所名	備考	事務事業 評価結果	事業費									今後の方向性			
		活動の成果・進捗状況	未達成事項・ 解決していない課題					平成22年度決算額(千円)			平成23年度決算額(千円)			平成24年度予算額(千円)			構成事 業の妥 当性	優先度		
								総額 (A)	特定財源 (B)	一般財源 (A-B)	総額 (A)	特定財源 (B)	一般財源 (A-B)	総額 (A)	特定財源 (B)	一般財源 (A-B)		1次 評価	2次 評価	
地域社会活動への参加に対する支援		(1) 指定管理者による高齢者福祉センターの管理運営では、期待通り施設の効用が高まっている。 (2) 第5期長寿あんしんプランについては、「地域包括ケアシステム」構築の先駆けとなる具体的な取組を盛り込んで作成した。 (3) その他の事業については、市民及び被保険者の注目度は高く、介護保険制度等の趣旨普及に大きく貢献する取組となった。	(1) 長寿・敬老支援に関する事業については、社会情勢等に応じて、事業実施の必要性を含めた見直しが必要。 (2) 救急医療情報キット配布事業については、災害時用援護者台帳事業及び地域支え合いマップとの連携調整が課題となっている。	長寿・敬老支援	長寿あんしん課		このまま継続	724	0	724	402		402	632	0	632		C	C	
				新倉高齢者福祉センター管理運営	長寿あんしん課		改善して継続	43,346	0	43,346	41,993		41,993	40,128	0	40,128		B	B	
				高齢者福祉センター管理運営	長寿あんしん課		このまま継続	43,478	0	43,478	44,215		44,215	44,215	0	44,215		B	B	
				介護保険事業計画・高齢者保健福祉計画策定	長寿あんしん課		終了(廃止・休止)			0	140		140	0	0	0	廃止	-	-	
				介護保険趣旨普及業務	長寿あんしん課	H24~	-			0			0	2,488	2,488	0		-	-	
				救急医療情報キットの配付	長寿あんしん課		改善して継続			0	390		390	32	0	32		B	B	
											0			0						
老人クラブへの加入促進		高齢化の伸展に伴い、高齢者自身によるコミュニティの形成や社会参加が推進されることが介護予防には不可欠である。老人クラブへの加入率は、順調に増加しているものと考えられる。		生きがい活動	長寿あんしん課		改善して継続	7,260	465	6,795	12,290		12,290	7,440	414	7,026		B	B	
										0			0							
										0			0							
										0			0							
										0			0							
高齢者の知識・経験の活用		老人クラブの活動を通じて様々な関係を築くことができ、また、高齢者の有する知識経験が地域に還元されるものと考えられるが、その効果は、老人クラブ加入率の増加に比例するものと考えている。		生きがい活動(重複)	長寿あんしん課						0									
										0										
										0			0							
										0			0							
										0			0							
施設サービスによる支援		(1) 在宅高齢者住宅支援事業については、高齢者に対する施策を、住環境の側面から補完するものとして有効に機能しているものと考えられる。 (2) 老人ホーム入所措置については、相談件数は増加しているものの、措置件数は減少しており、措置の適正化は図られているものと考えられる。		在宅高齢者住宅支援	長寿あんしん課		このまま継続	12,361	5,026	7,335	11,715	4,846	6,869	13,276	4,307	8,969		A	A	
				老人ホーム入所措置	長寿あんしん課		このまま継続	4,753	777	3,976	4,920		4,920	7,623	744	6,879		A	B	
										0			0							
										0			0							

## 施策評価表

施策番号	- - 36	重点プラン	2 安心していきいきと暮らせる	施策名	高齢者の生きがいと社会参加への支援	所管課	長寿あんしん課	関係課											
------	--------	-------	-----------------	-----	-------------------	-----	---------	-----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

健康診査の受診率の向上	健診率自体には大きな増加は見られないが、保険給付適正化の観点からは重要な取組として位置付けられ、一定の効果は得られているものとする。	保険給付適正化を念頭に置いた事業効果の検証方法や診査結果の効果的な活用方法等については今後検討する必要がある。	後期高齢者医療	長寿あんしん課	このまま継続	304,454	12,140	292,314	316,598	14,821	301,777	383,494	16,929	366,565			B	B		

### 4. これまでの取組に関する施策全体の総合評価

総合評価	理由(施策全体の進捗状況・解決していない課題など)
A 順調に進んでいる B ほぼ順調に進んでいる C あまり順調に進んでいない D 順調に進んでいない	施策全体では、順調に事業が実施できている。(介護保険制度等の趣旨普及は、取組に対する効果を短期間に求めることはできないが、これまでの継続的な取組の中で十分に効果が得られているものとする。)
B	
当市のサービス水準	理由(近隣他市との比較)
A 高い B 普通 C 低い	第5期長寿あんしんプランの策定や救急医療情報キット配布事業以外の事業については、近隣他市と同様の水準で実施している。
B	

### 5. 今後の施策の方向性(施策の推進に向けた今後の施策の展開や事業の見直し等)[1次評価(所管課)]

1次評価	第5期長寿あんしんプランに沿った事業運営と、保険者及び事業者等の関係者による事業方針の共有により、プランに掲げた目標の確実な達成を目指す。	対象者の方向性(増減)(%)	基本目標に対する貢献度
		107	B

### 6. 今後の施策の方向性[2次評価(行政評価委員会)]

2次評価	適切な施設運営により利用者の生きがいつくり貢献するとともに、経費節減等も検討すること。高齢者に対する事業を様々な展開しているが、限られた人員、財源のより効果的な投入を考え、事業の再編、事業規模の縮小等も検討すること。	サービス水準		コスト
		現状	方向性(目標水準)	方向性
		B	(B)	

### 7. 今後の施策の方向性(次年度行政経営方針)

サービス水準		コスト		コメント
現状	方向性	現状	方向性	